（竜王南小）学校　学校関係者評価書

令和　３年　２月　１７日（水）
（竜王南小学校）学校関係者評価委員会作成

第１回　学校関係者評価委員会
実施日：令和　３年　２月　１０日（　水　）午後　３時～
会　場：竜王南小学校会議室
参加者：（学校関係者評価委員）

学校評議委員		鶴田　重雄	梶原　照夫	米山　壽浩		
ＰＴＡ役員	会　長	込山　伸一				
	副会長	山口　愛美	石井　仁実	小林　香織		
（学校側）	校　長	野本　眞二				
	教　頭	飯塚　正規				
	教務主任兼生徒指導主任	松橋　　勝				

Ⅰ　学校側から提案された内容
（１）　教職員の自己評価及び改善策
（２）　児童・保護者アンケート結果
（３）　児童・保護者アンケートから見える課題
Ⅱ　協議された主な内容
（１）　コロナ禍の家庭における自主学習や読書時間や家庭での過ごし方
（２）　コロナ禍における不登校児への対応等生徒指導上の諸問題に関して
（３）　児童の発言やあいさつについて
（４）　保護者・地域からの情報収集・学校からの情報発信について

＜学校関係者評価書＞

Ⅰ　全体評価

コロナ禍の現状を踏まえ，ＰＤＣＡサイクルによるマネジメントにより，今までの学校評価からの課題を捉え，学校組織として対応を考えて取り組んできた。そのことにより，着実に教育活動の水準は高まってきており，学校教育目標の実現に向けて，連携・協働して取り組めている。

教職員の自己評価において，５５設問中，５２設問が，９０％以上の肯定的評価であることから，教職員が，学校経営方針に従い共通理解を得て，取り組んでいると考えられる。一方，否定的評価として記されている，外国語活動・読書活動・ＰＴＡ活動等保護者との連携・協働・情報発信に関する点が課題である。コロナ禍での取り組み方を工夫していかなければならない現状で，最善策を模索し，努力していきたい。

児童アンケート及び保護者アンケートに関しては，教職員の自己評価の課題を反映しつつも，肯定的評価は高い水準を維持している。また，児童アンケートにおいて，Ｄ回答が５％以上あった設問が増えたことから，コロナ禍での生活実態を捉えて指導の工夫を行うことが求められる。保護者への情報発信に関しては，大多数が満足している結果であったとはいえ，コロナ禍での，学校と保護者との交流や情報公開の在り方について考えを深めながら，進めていきたい。

Ⅱ 特　徴

●自主学習については，学校からの家庭学習の手引きや家庭学習週間の設定・家庭学習計画表の作成による保護者との連携が強まった。このことにより宿題忘れなどが約５％減少し，成果が表れている。

●教職員自己評価・児童アンケートからは，外国語活動についての指導法や授業に対する不安が表れている。

●あいさつについては，児童会活動の取り組みが活発になり，その成果が数値の上昇に表れている。

●開かれた学校においては，保護者・地域との連携に力を入れて取り組んでいると思っているが，コロナ禍における授業参観等の中止で保護者が参加できる学校行事が減っているため，ホームページや安心メール等の活動方法も含め，積極的に情報を共有していく工夫が必要である。

Ⅲ 今後の課題として意識されたこと

（１）コロナ禍の家庭における自主学習や読書時間や家庭での過ごし方について

〇年度当初，学校からの課題配布や預かりをしてもらった家庭も多く，非常に助かったと保護者に感謝された。コロナ禍で，子供達の生活はＴＶ・ユーチューブ視聴やゲームをする時間が増えている。今後も，様々な活動に制限を受ける状況の中，読書や楽しく親子で取り組めるような課題提示・情報発信を保護者と共に考えていきたい。

（２）コロナ禍における不登校児への対応等生徒指導上の諸問題に関して

〇コロナ禍において，様々なことが規制され，子供が単独で過ごすことが増えた分,集団で学ぶ機会が減少している。集団や人と交わることでの学ぶことの良さを失うことが危惧されるため，学校教育の中で，しっかり指導していきたい。

〇不登校児などに対して，担任・教務が家庭訪問を行ったり，保護者と多くの接点を持ったりして，情報共有を行うことやスクールカウンセラーを活用する等継続していく必要がある。

（３）児童の発言やあいさつについて

〇児童会活動の様々な取り組みによってあいさつ運動は活発になってきている。自己評価や児童アンケートの結果からは，自分の意見を言うことに少し消極的傾向があることが読み取れる。評議員からは,「胞子の会への方々への御礼の手紙内容からは，素直な子供達の気持ちが表現されているのではないか。」という意見が出された。また，ＰＴＡ役員からは,「意見を人前で言えるというアンケート項目にあるような表面的な様子だけでなく，内面の部分をもっと評価していく観点も必要である」という意見も出され，非言語のコミュニケーションの大切さも確認された。

（４）保護者・地域からの情報収集・学校からの情報発信について

〇コロナ禍にあって，保護者が学校へ来る機会が制限されている中，いかに学校と関わるかが問われている。ＰＴＡ役員は，まだその機会を得ることができるが，他の保護者はその機会がない。ＨＰや安心メール等で情報発信の内容を工夫する必要がある。読書週間の設定を増やすなど学校と保護者で連携し，家庭からの声を反映することが大切である。コロナ禍において,「開かれた学校」をどう展開していくかが今後の課題となる。

※特記事項

〇卒業式・入学式等の出席者の制限に対応する為に，オンライン活用などを今後検討していってほしい。

〇東日本大震災の教訓である「自分の命は自分で守る」という言葉が今も通じる考え方であり，指導に活かしてほしい。

記載責任者（竜王南小学校　学校関係者評価委員）　氏名：　込山　伸一　印